

福井県立大学恐竜学部 学生確保の見通し等について

目次

(1) 新設組織の概要	p. 2
①新設組織の概要	p. 2
②新設組織の特色	p. 2
(2) 人材需要の社会的な動向等	p. 2
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	p. 2
②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	p. 3
③新設組織の主な学生募集地域	p. 4
④既設組織の定員充足の状況	p. 4
(3) 学生確保の見通し	p. 6
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	p. 6
ア 既設組織における取組	p. 6
イ 新設組織における取組とその目標	p. 6
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	p. 7
②競合校の状況分析	p. 8
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	p. 8
イ 競合校の入学志願動向等	p. 10
ウ 学生納付金等の金額設定の理由	p. 10
③先行事例分析	p. 11
④学生確保に関するアンケート調査	p. 11
⑤人材需要に関するアンケート調査	p. 12
(4) 新設組織の定員設定の理由	p. 13

(1) 新設組織の概要

① 新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地	
福井県立大学 恐竜学部 恐竜・地質学科	30 名	120 名	(主に1年次に一般教育科目を学ぶ) 福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島 4-1-1	(主に 2 年次以降に専門教育科目を学ぶ) 福井県勝山市村岡町五本寺 17-15

新設組織について、学部名称は「恐竜学部」、学科名称は「恐竜・地質学科」とする。入学定員については、下記で詳述するが、30 人として、収容定員は 120 名である。所在地は、主に 1 年次に一般教育科目を学ぶための永平寺キャンパス（福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島）と主に 2 年次以降に専門教育科目を学修するための勝山キャンパス（福井県勝山市村岡町五本寺）の 2 つである。

②新設組織の特色

恐竜学部では、現代社会の地球科学諸問題に対応するため、幅広い教養と地球科学に関する知識・技術を持ち、多様な局面において協働的および自主的に課題を探究・解決できる人材を育成するとともに、学術情報を地域社会へ積極的に開放することを目指す。

学部では、隣接する福井県立恐竜博物館と人的資源、物的資源の交流を通して、教育・研究を行っていく。また、福井県には恐竜以外にも越前海岸の東尋坊や水月湖の年縞など重要な地質遺産があるため、これらを活用したフィールドワークを県内だけではなく県外でも行っていく。さらには、英語科目や情報科目を通して、国際化やデジタル化に対応できるようにしていく。そのほかにも、大学での研究成果を公開講座や産学官共同研究などの形で積極的に地域や初等中等教育機関へ発信することで、地域貢献を行っていく。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

福井県立大学（以下、本学）は、1992 年の開学以来、「魅力ある大学」「個性ある大学」「開かれた大学」の 3 つの基本理念に基づき、優秀な人材の輩出や教育研究成果の地域への還元など、地域および産業の振興に貢献してきた。

しかし、近年、福井県のみならず、全国的に本格的な人口減少と社会・経済のグローバル化が進む中、本学には社会の持続可能性を支える人材育成が求められている。

このような状況の中、本学としての課題は、次の 2 つを挙げることができる。

1 つは、人口減少である。全国的に人口減と高齢化が進行する例に漏れず、福井県でも少子高齢化が進んでいる。また、福井県では大学進学時と卒業後の就職時における大都市圏への若年層の転出の多さが大きな課題となっている。若者が県外に流出することで、地域の活力は低下していく。福井県の調査では、約 6 割の集落が 10 年後に「衰退している」と回答し、同じく高齢化集落数（65 歳以上の高齢者が人口の 50%以上を占める集落）は増加している（平成 30 年 3 月 福井県集落実態調査報告書）。このような、人口減少による地域の活力低下を解決するには、地域に定着する人材育成と地域の活力の維持に対応し得る大学づくりが重要である。

2 つ目は、大学間競争の激化である、少子化が進行する中、大学数及び入学者数は拡大している。学校基本調査によると、全国の国公立大学数は、開学時の平成 4 年度の 523 大学であったが、令和 4 年

度には 807 大学になっている。また、大学入学者数は、平成 4 年度が 54.2 万人から令和 4 年度には 63.5 万人に増加した。その一方で、全国の 18 歳人口は、平成 4 年の 205 万人から令和元年には 117 万人と大きく減少している。このような課題に対しては、他大学との差別化を図り、「福井県立大学」の存在感を示していくことで、優秀で志向性の高い学生を集めることができるようになる。

加えて、公開講座等を通してすべての県民に対して生涯学習の機会を提供し、北陸新幹線県内延伸後の福井観光を促進させるなど、地域の活性化に寄与することも本学が担うべき重要な使命として期待されている。

これらの課題や役割に対して、恐竜学部では、恐竜をはじめとする古生物学や地質学・古環境学を含めた地球科学の知識・技術はもちろん、一般教育科目を通して文理横断的な教養も身に付けるための教育を行う。そして、身に付けた知識や技術を活かして、地球科学の諸問題に適切に対応できる人材を育成する。その過程では、多様な人々と協働することも重要であり、これらを通して、よりよい未来へ向けて行動できる意欲と能力を有した人材を養成することを目標としている。これらの人材をコンスタントに輩出していくことで、入学者の安定的な確保につながり、ひいては地域や大学の課題であった福井県からの人口の流出を抑えて、魅力ある大学づくりを行うことができるはずである。

(参考資料：①「福井県における年齢別県外転出推移」)

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

○18 歳人口の推移

日本全体の人口減に伴い、18 歳人口も今後減少していく。学校基本調査を基に(株)教育企画センターが作成した資料によると、2020 年度の人口を 100 とした場合、福井県の人口は学部が設置される 2025 年度には 94.8、学部完成年度にあたる 2028 年度には 90.2 と減少傾向である。全国計は、2025 年度 95.8、2028 年度 93.7 であり、全国と比較しても減少幅が大きいことが分かる。そのため、今後の志願者確保には、こうした点についても考慮する必要がある。そこで、前述の都道府県別 18 歳人口予測値推移および本学の志願者数推移から、人口減に伴う志願者数の変化について推計を行った。

具体的にはまず、本学志願者を地域別に過去 3 年平均で算出した(資料③中の A)。次に、学部が設置される 2025 年度、学部完成年度にあたる 2028 年度、およびさらにその先の 2033 年度、2035 年度の人口減少比率を、地域別に算出した(資料③中の B)。次に、この志願者減少比の値を用い、今後の志願者数の推定値を計算した。各地域の平均志願者数(資料中③の A)に 2025 年度、2028 年度、2033 年度、2035 年度それぞれの志願者数減少比(資料③中の B)を乗じ、志願者数の推定値とした(資料③中の C)。

その結果、予測された人口減に伴う推定志願者数は 2025 年度、2028 年度、2033 年度、2035 年度それぞれで 1974 名、1889 名、1748 名、1696 名となった。これは、現在の募集定員である 430 名を大きく上回る数値であり、さらにその先の人口減少を考慮した場合でも、今後の入学者確保は十分に可能であると考えられる。

なお、これらの推定志願者数を地域別に見ると、どの年度においても、一番多くの志願者数が見込めるのは、北陸地域(福井県、石川県、富山県、新潟県)であり、その次は中部地方(山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県)である。

(参考資料：②「都道府県別 18 歳人口予測値推移」、③「地域別 18 歳人口減少率および志願者数の減少予測」)

○福井県内外出身学生動向(地域的動向)

学校基本調査や福井県が実施した進路実態調査結果によると、令和 4 年 3 月に高校を卒業し、福井県

内に所在する大学へ進学する者（約 2300 人）のうち、県外出身者と県内出身者の割合は、約 5 割ずつである（県外出身者が約 1100 人、県内出身者が約 1200 人）。また、令和 4 年 3 月卒業の大学進学者（約 3700 人）のうち、県内大学への進学者は約 3 割（約 1200 人）、県外大学への進学者は約 7 割（約 2500 人）であるという数値が示されている。これらのことから、地域的動向としては、福井県内高校卒業生（大学進学者）の半数以上が福井県外へ進学してしまう厳しい状況である。

これらのデータは、福井県内の大学全体の地域的動向についてのものであるが、福井県立大学だけに限って見ても、福井県内出身者と県外出身者の割合はおおむね 1 : 1 であることが分かる。

（参考資料：④「福井県内高校卒業生の大学進学動向と県内大学の県内学出身割合」、⑤「福井県立大学入学者における県内出身者と県外出身者の割合」）

③新設組織の主な学生募集地域

恐竜学部の学生募集地域としては、本学が所在する福井県内大学への入学者の都道府県別内訳や本学への入学者の都道府県別内訳より、北陸地域が中心になると思われる。具体的には、福井県、石川県、富山県である。それぞれの都道府県における福井県内大学への入学者数を見ると、令和 4 年度では福井県 1176 人、石川県 144 人、富山県 88 人であり、これらの 3 県で福井県内大学への総入学者数の約 6 割を占めている。福井県立大学に限って、入学者の都道府県別内訳をみても、傾向は同じであり、やはり北陸地域が学生募集の中心といえる。

なお、次点の募集地域としては、福井県内大学への入学者の都道府県別内訳や本学への入学者の都道府県別内訳より、上位に位置する愛知県や岐阜県が含まれる中部地域を挙げることができる。

また、福井県内大学（国公立）における学生募集の現状を把握するため、定員充足率を直近 3 年分見てみると、いずれの大学も 100%を超えており、安定的な学生募集を行っていることが分かる。

次に、学問分野別の動向を把握するため、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」における、学問分野（系統区分）別に定員充足率を見ると、恐竜学部が含まれる「理・工学系」の充足率は、直近 3 年間いずれも 100%を超えており、安定的に学生確保を行うことができる学問分野であることが分かる。

さらに、より詳細な学問分野として、恐竜学部と同じ地球科学を学ぶことができる全国の国公立大学の入試動向を過去 3 年分見ると、定員充足率は 110%前後であり、競争倍率も 2 倍程度あることから、全国的に地球科学系学問への興味が高く、どの大学も安定的に学生確保を行っていることが分かる。

このような状況の中で、後述の広報活動を県内・県外問わずに行い、恐竜学部の認知度を向上させることで、本県や近隣県はもとより、全国から多くの高校生が志望することを期待できると考えている。

（参考資料：別紙 1「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」、⑥「他の国公立大学（地球科学系）の入試動向（直近 3 年間）」、（再掲）③「地域別 18 歳人口減少率および志願者数の減少予測」）

④既設組織の定員充足の状況

○既設学部等の入試実施状況

本学では、学部学科にもよるが、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「特別選抜」、「一般選抜（前期・後期）」の 4 つの選抜方法を実施して、幅広い学生確保に努めている。ここで、本学の既設 4 学部 8 学科の入試状況（過去 5 年間）について、全ての選抜方法を合計した総計で見ると、志願者数は、毎年約 2300 人程度であり、志願倍率は約 5.6 倍程度を維持している。これを実際の受験者数で見ると、受験者数は、毎年約 1400 人であり、競争倍率は約 2.6 倍程度である。このように、本学は、安定的に受験者を確保しているといえることができる。これは、本学の理念や教育方針に共鳴いただいた高校生が多くいる

ことを表している。

(参考資料：⑦「既設学部・学科の入試実施状況」)

○既設学部等の定員充足状況

また、定員充足状況を令和元年度～令和5年度の過去5年間で見ると、いずれの学科・年度においても、定員充足率が100%を上回っており、適切な定員管理を行っていることが分かる。さらに、歩留率は、いずれの学科の過去5年平均で、約80%程度である。恐竜学部においても、学生確保の取り組みを計画通りに履行することで、入学定員の充足が可能と考えている。

(参考資料：別紙2「既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）」)

○収容定員変更の予定

本学では、恐竜学部が開設予定の令和7年度、およびその次年度である令和8年度に収容定員の変更を予定している。

・令和7年度の変更予定

生物資源学部生物資源学科の入学定員を45名から50名に変更し、併せて収容定員を200名に変更する。また、生物資源学部創造農学科の入学定員を25名から30名に変更し、併せて収容定員を120名に変更する。

令和7年度時点の定員

学部	学科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	100名	400名
	経営学科	100名	400名
生物資源学部	生物資源学科	50名(+5名)	200名
	創造農学科	30名(+5名)	120名
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	50名	200名
	先端増養殖科学科	30名	120名
看護福祉学部	看護学科	50名	200名
	社会福祉学科	30名	120名
恐竜学部	恐竜・地質学科	30名	120名

・令和8年度の変更予定

新しく学部の新設を構想しており、その入学定員を70名、収容定員を280名と予定する。新学部の開設に併せて、経済学部経済学科の収容定員を100名から80名、収容定員を400名から320名に、同じく経済学部経営学科の収容定員を100名から80名、収容定員を400名から320名に変更する。

令和8年度時点の定員

学部	学科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	80名(－20名)	320名
	経営学科	80名(－20名)	320名
生物資源学部	生物資源学科	50名	200名
	創造農学科	30名	120名
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	50名	200名
	先端増養殖科学科	30名	120名

看護福祉学部	看護学科	50 名	200 名
	社会福祉学科	30 名	120 名
恐竜学部	恐竜・地質学科	30 名	120 名
新学部（名称未定）	新学科（名称未定）	70 名（+70 名）	280 名

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組

本学における受験生募集のための広報活動は、教育・学生支援部入試企画室が中心となり、教員の協力を得て行っている。広報計画については、毎年度4月・5月に各学部の教員で構成される入学試験本部会議において協議・決定を行ったうえで、実施している。

本学既設組織のうち、恐竜学部と学問分野が近接する学科として、生物資源学部生物資源学科を挙げることができる。

生物資源学科におけるPR活動の過去の実績は次のとおりである。（取組によっては、全学部分の実績のものもある。）

①オープンキャンパス（生物資源学部生物資源学科分）

毎年8月上旬に、キャンパスを開放し、各学部の特色や研究内容の紹介、模擬授業、施設案内を行っている。令和3年度、令和4年度ともに、8月上旬に開催し、申込上限数に達する参加があった。受験対象者（PR活動実施時に高校3年生であった学生）のうち、実際に受験したのは約40%であり、入学したのは約20%であった。

また、対面以外にも、オンライン上での交流会も実施している。

②進学相談会（全学部分）

県内外で受験希望者や保護者を対象に、特色や取組、受験における相談会を実施している。生物資源学科に限定した進学・進路説明会は行っていないため、全学部分の数字にはなるものの、令和4年度は3回で178人、令和5年度は8回で300人の参加があった。なお、令和4年度は新型コロナウイルスの影響により、説明会自体の開催数が少なかったため、参加者も減少したと考えられる。

③高校訪問（全学部分）

県内外で本学に興味関心を示す高校生を対象に、大学の特色や取組、研究内容、施設紹介等を実施している。高校訪問は、基本的に事務職員ではなく、教員が行う体制を取っている。過去の実績について、生物資源学科に限定した進学・進路説明会は行っていないため、全学部分の数字にはなるものの、令和3年度は1164人、令和5年度は970人に対して説明を行った。

④大学案内の配布（郵送）（全学部分）

受験希望者や高校へ郵送している。全学部分の数字にはなるものの、令和3年度は937人、令和4年度は1958人から請求があり、郵送を行った。

⑤入試対策講座・一般教育科目模擬授業（生物資源学部生物資源学科分）

受験希望者を対象に、受験対策の講義と本学教員による模擬授業、施設案内を実施。令和3年度は8人、令和4年度は17人の参加があった。

（参考資料：別紙3「既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績」）

イ 新設組織における取組とその目標

恐竜学部における具体的な取り組みは、次のとおりである。

①オープンキャンパス

毎年8月頃にオープンキャンパスを対面型とオンラインの2つの形態で実施する予定である。対面型では、実際の教室を利用した模擬授業や入試対策講座、キャンパスツアー等も開催して、学生の興味関心を喚起する。また、化石の3Dスキャン等のワークショップも行うことで、実際に大学で学ぶ内容を体験する。

また、対面型オープンキャンパスに参加できない学生を主な対象としたオンラインオープンキャンパスも開催し、学部説明や教員や在校生とオンライン上で交流する機会を設ける。

②進学・相談会

適宜、高校やイベント会社が主催する進学相談会にブースを出展して、高校生や保護者、教員等の相談に応じる。また、実際に学部で学ぶ内容の例として、レプリカ化石やVR機器を持ち込んで、参加者に体験してもらうことを通して、他大学との差別化を図っていく。

なお、対面では参加できない高校生に向けて、高校生向けインターネットサイト(夢ナビ講義ライブ)に講義動画を掲載して、県内外高校生に実際に大学での授業を体験してもらう機会を設けている(視聴は無料)。

③高校訪問(希望する高校にはオンライン開催)

毎年7月から9月頃にかけて、希望するすべての県内外高校を教員が訪問して、各学部の特性や入試制度を紹介する。

④進路指導教員入試説明会(オンライン開催)

毎年8月頃に県内外高校の進路指導担当教員を対象に、入試制度の説明等や質疑応答を行う。

⑤リーフレットの作成

恐竜学部の設置の趣旨、概要および養成する人材像を記載したリーフレットを作成して、高等学校に配布する。

⑥大学ホームページの更新

本学のホームページ内に、恐竜学部の特設ページを設置して設置の趣旨、概要及び養成する人材像等の学部概要を掲示する。

⑦受験雑誌やSNS等による広報

恐竜学部の研究・教育活動等について、受験雑誌やSNS、交通広告を活用して高校生や県民に対して、広く周知する。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

恐竜学部における入学者見込みについて、実際に教員が模擬授業やキャンパスツアーを行い、学生への訴求力が高いと考えられるオープンキャンパスに注目して検討していく。

令和5年8月6日に本学で実施したオープンキャンパスにおける参加者アンケートによると、恐竜学部紹介教室への参加者は95人であり、そのうち入学対象者である高校2年生は57人であった。この中から、さらにいくつかの条件(設置者の種類、興味がある学習分野、受験意欲、入学意欲等)で抽出した場合、32名が入学見込みであり、定員30名を超過していることが分かる。(詳細は、学生確保に関するアンケート調査で述べる。)

もちろん、この結果は単年度の結果のみであるため、オープンキャンパス以外のPR活動も積極的に行っていくことで、学生確保を行っていく。

②競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

○競合校の選定

主な学生募集地域である北陸地方において、本学の恐竜学部と同様の地球科学系分野の学部学科を設置し、競合校として考えられる大学は、2 大学（金沢大学理工学域地球社会基盤学類、富山大学都市デザイン学部地球システム科学科）ある。また、これらの大学以外にも、コースとしてではあるが、恐竜や古生物に特化して学ぶことができる大学として、岡山理科大学生物地球学部生物地球学科恐竜・古生物学コースがあるため、これも競合校として、合計 3 大学を選定する。

選定理由として、金沢大学と富山大学の 2 大学は、国公立大学の地球科学系を学ぶことができる学類および学科であり、一般選抜の試験日程や主たる学生募集地域である北陸地域に所在することから、これらの大学を志願する者が本学を併願しやすくなったり、あるいは本学を第一志望にしたりすることが考えられるため、競合校と想定した。また、上記の併願関係が想定されるため、学力層についても、2 大学と同程度になると推測できる。取得できる学位は、金沢大学理工学域地球社会基盤学類はコースによって異なるが、地球科学系分野を学修する地球惑星科学コースでは学士（理学）、富山大学都市デザイン学部地球システム科学科も、学士（理学）であり、恐竜学部と同様である。定員規模としては、金沢大学理工学域地球社会基盤学類地球惑星科学コースは 26 名、富山大学都市デザイン学部地球システム科学科は 40 名であり、恐竜学部と同程度である。

入試状況（過去 3 年分）について、金沢大学理工学域地球社会基盤学類の一般選抜前期日程の競争倍率は、平均 2 倍程度で推移しており、富山大学都市デザイン学部地球システム科学科も同様に 2 倍程度である。定員充足率をみても、概ね 100%を超える値で推移している。このことから、両校とも学生から一定の評価を得て、学生募集活動を行っていることが分かる。

なお、北陸地域に地球科学を学ぶことができる私立大学は存在しない。

（参考資料：（再掲）⑥「他の国公立大学（地球科学系）の入試動向（直近 3 年間）」）

次に、岡山理科大学について、本大学は私立大学であり、所在地も中国地方であることから、類似性は少ないものの、学問分野として、コースではあるものの、「恐竜・古生物コース」を設けており、学問分野が特に類似していることから競合校とした。

○競合校と比較した際の恐竜学部の優位性

恐竜学部の優位性について、次の 5 つの観点から分析する。

I 教育内容

教育内容について、4 大学（福井県立大学恐竜学部、金沢大学理工学域地球社会基盤学類、富山大学都市デザイン学部地球システム科学科、岡山理科大学生物地球学部生物地球学科）とも地球科学分野を中心に学ぶが、本学の特長としては、学部名にもある通り、恐竜を中心とした古生物およびそれらを取り巻く地質・古環境等を学ぶことである。福井県では、30 年以上にわたり恐竜研究を行い、また、水月湖の年縞や東尋坊など古生物・地質・古環境学的に重要な自然環境が多く存在している。これらの地域特性を活かし、フィールドワークも多く取り入れた上で地球科学を理解することを目指す。

また、恐竜学部生が主に 2 年次以上に利用する勝山キャンパスは、福井県立恐竜博物館に隣接している。福井県立恐竜博物館は、年間約 90 万人の入館者と全国最大級の展示面積、収蔵資料を誇る古生物専門の博物館であり、30 年以上にわたる恐竜化石調査により我が国の恐竜研究をリードしてきた施設である。こうした博物館とキャンパスが隣接することにより、相互の人的交流や設備の共同活用がしやすくなる。この利点を活かし、具体的には、博物館の研究員がそれぞれの専門性を活かして、適宜講義や

助言等において学生の教育・研究に携わったり、学生が学芸員養成課程の「博物館実習」等において、博物館の展示手法を学んだりしていく。

さらに、恐竜学部は、デジタル技術の活用も特色の一つとしている。3D プリンターや大型 CT 装置等のデジタル機器を用いて、標本を非破壊で内部構造の分析などを行う。解析を通して、技術を学ぶとともに、それらを出力する手法も学修することで、表現手段として実験結果・分析結果を分かりやすく正確に相手に伝達・表現することにつながる。デジタル機器の使用については、隣接する福井県立恐竜博物館と連携して、より多くの標本を解析することを通して、経験を多く積んで理解を深めていく。

このような地域的特色やデジタル技術を活用した教育内容は、恐竜学部が学生にアピールできる点といえることができる。

Ⅱ 入試（受験時期や入学手続時期の比較）

入試制度について、競合校によっては名称の違いはあるが、大別すると一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜の 3 つに分かれる。それぞれの入試制度ごとに、令和 6 年度入試を例に受験時期や入学手続時期を 4 大学に分けて見ていく（恐竜学部については、令和 7 年度に実施予定の制度を令和 6 年度に実施したと仮定する）。

まず、一般選抜（前期日程）について、受験時期は私立大学である岡山理科大学を除く、国公立 3 大学では、2 月 25 日（26 日も連続で行う場合あり）である。合格発表日は本学が 3 月 6 日であるのに対して、金沢大学は 3 月 9 日、富山大学は 3 月 7 日である。合格発表が早い分だけ入学手続期間を長く設けることができるため、本学はより学生本位といえることができる。なお、岡山理科大学については、一般選抜のうち募集人員の多くを占める前期日程（3 科目型）、前期日程（2 科目型）において、大学入学共通テストを課していないため、受験時期が異なってくる。

次に、総合型選抜について、本学および岡山理科大学は学力を図る指標として大学入学共通テストではなく、調査書等を用いているが、他の 2 大学については、大学入学共通テストを採用している。この関係で、受験日や入学手続期間が異なっているが、どの大学も期間は十分に確保しているといえる。最後に、学校推薦型選抜についてだが、まず富山大学は選抜自体を行っていない。金沢大学、本学および岡山理科大学については、学力を図る指標の関係上、手続期間が異なるが、十分に期間を確保しているといえる。

Ⅲ 学生納付金

学生納付金について、本学と競合校（岡山理科大学以外の 2 大学）では、授業料および検定料は概ね同程度となっている。しかし、入学料については、本学では福井県内に住所を有する者は、188000 円となっており、福井県外に住所を有するものと比べて、94000 円低く設定している。一方、金沢大学・富山大学については、大学が所在する都道府県に住所を有する学生への入学料優遇は行っておらず、一律で 282000 円である。本学への入学者のうち、福井県出身者が最も多いことも踏まえると、学生にとって優位に働くとと思われる。

なお、岡山理科大学について、入学料は他の 3 大学に比べて低いものの、授業料や検定料は、高く設定している。特に、毎年度の授業料については、福井県立大学のほうが年間約 30 万円低いいため、この点は学生にとって魅力的であると考えられる。

（参考資料：⑧「国公立大学（北陸地方）および競合校の学生納付金」）

IV 就職支援

就職支援について、本学では、キャリア教育や個別の就職相談・指導など学生の就職活動を総合的に支援する組織として、「キャリアセンター」を設置している。専従の教員のほか、キャリアコンサルタント等の資格を有する就職アドバイザーを配置し、個別の相談や指導、面接練習などが実施できる体制としている。また、就職の支援に関する委員会として、各学科、学術教養センターおよびキャリアセンターに所属し、学生支援およびキャリア教育に知見を有する教員と、就職・生活支援課（事務局）の職員で構成した「学生支援委員会」を設置し、概ね毎月（年 11～12 回）開催している。学生の学問・就職に関する高い意識付けの実現や一人ひとりに合ったサポート方策等について検討している。その結果、令和 4 年度の本学卒業生の就職率は 99.4%であり、他の競合校（金沢大学：98.5%、富山大学：98.4%、岡山理科大学：97%）に比べて、高い水準であった。

V 取得可能な資格

取得できる資格について、恐竜学部では、測量士補、学芸員、高等学校教諭一種免許状（理科）を取得できるようにする。一方、金沢大学理工学域地球社会基盤学類地球惑星科学コースでは、学芸員、中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）を取得でき、富山大学都市デザイン学部地球システム科学科では、技術士補や測量士補、学芸員、中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）を取得できる。また、岡山理科大学生物地球学部生物地球学科では、測量士補や学芸員、高等学校教諭一種免許状（理科）、中学校教諭一種免許状（理科）、小学校教諭二種免許状、自然再生士補を取得できる。

恐竜学部の優位性としては、学芸員資格について、競合校の多くは人文学部等の学部が開講しているが、本学では恐竜学部の専門教育科目として開講することである。博物館実習などでは、隣接する恐竜博物館を活用して、実際の展示や収集などの学芸事項を学ぶことができる。そのため、自然科学系博物館に重点を置いた授業内容となり、より実践的な経験や訓練を積むことが可能になる。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校のうち、金沢大学と富山大学の入試動向を過去 3 年分見ると、定員充足率は平均 105%、競争倍率は平均 1.7 倍であり、一定の志願倍率を保ちながら、入学定員を充足していることが分かる。

なお、岡山理科大学については、一般選抜前期日程の中に、さらに詳細な型（3 科目型や 2 科目型等）を用意しており、それらを併願できるため、正確な受験者を把握できない。そのため、収容定員充足率を見てみると、令和 5 年 5 月時点では、104%となっており、定員を充足しているといえることができる。

これらの競合校の定員充足状況から、恐竜学部においても、上記の優位性を PR していくことで、十分に定員を充足できる。

（参考資料：⑨「競合校の入試動向（直近 3 年間）」）

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

本学が公立大学であることを踏まえ、本学既設学部と同様、近隣（北陸地方）の国公立大学と同水準の学生納付金額とする。

（参考資料：再掲⑧「国公立大学（北陸地方）および競合校の学生納付金」）

I 授業料

公立大学法人福井県立大学授業料等規程（平成 19 年 4 月 1 日公立大学法人福井県立大学規程第 52 号）第 2 条で定められている通り、年間 535800 円とする。

これは、競合校となり得る金沢大学および富山大学を含めた、他の北陸地方の国公立大学と同様の金額である。

Ⅱ 入学料

公立大学法人福井県立大学授業料等規程第2条で定められている通り、県内居住者 188000 円、県外居住者 282000 円とする。

(注) 福井県内の者とは、以下のいずれかに該当する者のことをいう。

- ・入学料を納める年度の4月1日以前から引き続き福井県内に住所を有する者
- ・入学料を納める年度の4月1日以前から引き続き福井県内に1親等の親族が住所を有する者
- ・理事長がこれらに準ずると認める者

この金額は、福井県内に住所を有する者にとっては、他の国公立競合校に進学した場合と比べて94000円低いことになる。他の国公立競合校は、大学が所在する都道府県に住所を有する学生への入学料優遇は行っておらず、一律で282000円である。本学への入学者のうち、福井県出身者が最も多いことも踏まえると、学生本位の制度と言える。

Ⅲ 検定料

公立大学法人福井県立大学授業料等規程第2条で定められている通り、17000 円とする。

これは、競合校を含めた、他の北陸地方の国公立大学と同様の金額である。

③先行事例分析

恐竜学部は、既設組織を廃止して新設組織を設置するわけではないので、先行事例の該当はない。

④学生確保に関するアンケート調査

恐竜学部の学生確保の見通しについて、更なる検証を行うために、第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）に依頼し、アンケート調査を実施した。

高校生アンケート調査の実施概要は以下のとおりである。

調査目的	福井県立大学が令和7年度4月に設置構想中の恐竜学部恐竜・地質学科について、学生確保の見通しを検証するために高校生アンケート調査を行った。 ■「恐竜学部 恐竜・地質学科（仮称）（入学定員：30名）」
調査時期	1回目：令和5年8月6日（日）実施の本学対面型オープンキャンパス（恐竜学部実施分）における参加者 2回目：令和5年8月27日（日）実施の本学オンライン型オープンキャンパス（恐竜学部実施分）における参加者 3回目：令和5年10月～11月にかけて、対象高校へ郵送 ※2回目・3回目調査時は同一アンケートの回答歴がないことを確認。
調査対象	1・2回目：令和5年度現在の高校2年生として在籍する生徒（※新学部設置時に大学進学時期を迎える者） 3回目：福井県立大学が学生確保の基盤としている北陸地方（福井県・石川県・富山県・新潟県）および中部地方（愛知県・岐阜県・静岡県・長野県）の学校において令和5年度現在の高校2年生として在籍する生徒（※新学部設置時に大学進学時期を迎える者）
調査内容	選択式の8問。 ■回答者の基本情報（性別、居住地、希望進路、興味のある学問分野）

	■設置構想中の新学部への受験・入学意向、もしくは「受験しない」を選択した理由
回答件数	5293 件（1 回目：57 件、2 回目：27 件、3 回目：5209 件）

以上の概要のアンケートを令和 5 年現在、高校 2 年生に対して実施した。令和 5 年 8 月の本学オープンキャンパス参加者 84 人の他、令和 5 年 10 月に本学が学生確保の基盤とする福井県、石川県、富山県、新潟県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県の全 58 校からの協力を得て合計 5209 人、オープンキャンパス参加者とあわせて総計 5293 人から回答を得た。

5293 人の回答者のうち、恐竜学部を「第一志望として受験する」は 104 人、「第二志望として受験する」は 79 人、「第三志望以降として受験する」は 167 人いた。また、恐竜学部に合格した場合、「入学する」としたのは 142 人、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」としたのは 187 人であった。

なお、志望意向別に入学意向をクロス集計すると、「第一志望として受験する」とした上で「入学する」としたのは 93 人、「第二志望として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」としたのは 48 人、「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」としたのは 134 人いた。この結果について、高校卒業後の希望進路は「大学」、志望する大学の設置者として「公立」、かつ興味のある学問分野として「恐竜・地質学」の全てを選択した上で、恐竜学部を「第一志望として受験する」とし「入学する」とした回答者は 65 人いた。入学定員 30 名を予定する恐竜学部に対し、定員の 2 倍以上の高校生が明確な進学意向を示す結果となった。

（参考資料：⑩「福井県立大学「恐竜学部 恐竜・地質学科（仮称）」設置構想についての高校生アンケート調査報告書」）

⑤人材需要に関するアンケート調査

恐竜学部の人材需要の見通しについて、更なる検証を行うために、第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）に依頼し、アンケート調査を実施した。

人材需要アンケート調査の実施概要は以下のとおりである。

調査目的	福井県立大学が令和 7 年度 4 月に設置構想中の恐竜学部恐竜・地質学科について、人材需要の見通しを検証するために高校生アンケート調査を行った。 ■「恐竜学部 恐竜・地質学科（仮称）（入学定員：30 名）」
調査時期	令和 5 年 11 月～12 月
調査対象	恐竜学部恐竜・地質学科が養成する人材のニーズ・採用が見込まれる、福井県をはじめとする北陸ならびに信越・東海地方の以下の業種・施設・団体等。 ■地方自治体 ■博物館 ■ジオパーク関連団体 ■環境関連企業 ■土木・建設業 ■IT 関連業 ■旅行関連業 ■メディア関連業 など 以上を含む 1056 箇所に依頼

調査内容	全 7 問（選択式 6 問、記述式 1 問） ■回答元の基本情報（所在地、業種、従業員・職員規模） ■恐竜学部恐竜・地質学科が養成する人材の社会的ニーズ、採用意向 等
回答件数	334 件（回収率 31.6%）

以上の概要のアンケートを実施した結果、回答元を得た全 334 箇所の 32.6%にあたる 109 事業所から恐竜学部恐竜・地質学科養成する人材のニーズは高いとの回答を得た（「人材ニーズは極めて高い」「人材ニーズはある程度高い」の合計）。さらに全体の 24.6%にあたる 82 事業所から「福井県立大学 恐竜学部 恐竜・地質学科（仮称）の卒業予定者の採用意向が示された。また、その 82 事業所における単年度の採用可能人数の合計は、入学定員の 30 名を大きく上回る 105 名であった。

（参考資料：⑪「福井県立大学「恐竜学部 恐竜・地質学科（仮称）」設置構想についての人材需要アンケート調査報告書」）

（4）新設組織の定員設定の理由

恐竜学部の入学定員は 30 名と設定した。その根拠は以下の通りである。

第 1 に教育の質が担保できる点である。本学では、3 つの基本理念のうちの 1 つである、「個性ある大学」を実現するために、教員のきめ細やかな指導やそれによるコミュニケーションの加速により、高密度の研究・主体的で深い学びができる少人数教育を実施している。実際に、既設組織における教員一人当たりの収容定員数は平均約 13.5 人である。恐竜学部における基幹教員一人当たりの収容定員数は、約 6.0 人（120 人/20 人）である。これは、既設学科と比較しても、少ない数字であり、より密度の高い研究指導を受けることができる。

第 2 に永続的な大学経営が可能な点である。設定した学生納付金、必要となる設置経費や経常経費を踏まえ、定員 30 名で永続的な大学経営が可能であると判断した。

第 3 に学生確保の見通しが可能な点である。3 回に分けて受験意向・入学意向のアンケート調査を実施した結果、高校卒業後の希望進路は「大学」、志望する大学の設置者として「公立」、かつ興味のある学問分野として「恐竜・地質学」の全てを選択した上で、恐竜学部を「第一志望として受験する」とし「入学する」とした回答者は 65 人いた。この結果から、定員を 30 名に設定しても充足の見込みがあると判断した。

第 4 に卒業生の進路先の確保が可能な点である。卒業生の就職が予想される北陸・信越・東海地方等の地方自治体、博物館、ジオパーク関連団体、環境関連企業、土木・建設業、IT 関連業旅行関連業、メディア関連業など合計 1056 施設に対し、本学部の卒業生の採用意向を調査した結果、105 名の採用想定数が確認された。これは本学部入学定員設定の約 3.5 倍にあたる。採用意向調査結果から、安定した人材需要があることがうかがえる。

（参考資料：⑫「福井県立大学における教員一人当たりの学生数」）